

針の木大雪渓

高山植物とスキー

'84.7.7~8

M.石垣隆直(L), 菅沼博

高野真砂子, 西川克之

昨年の7月乗鞍で7月のスキーにはじりオドを打ったつもりだったが、一年が過ぎるとそんなことはコロっと忘れて、石垣さんから誘われるまま針の木大雪渓を滑ることになってしまった。

前夜新宿西口に集合し、車でお発した。途中のS.A.で仮眠し扇沢駅に着く。大沢小屋への山道ではなく、竈川沿いの道を登る。三つ程エンテイを越えた所で道はなくなり大沢出合の下で左岸へ渡る。先行したパーティーは右岸をそのまま登り雪渓の末端へ出たようだ。沢を渡るとすぐ大雪渓の末端で幕営地になっている。すぐにテントを張り身軽になってお発する。

雪渓末端でアイゼンをつけた。これは楽だった。3ピッチで針の木峠についた。途中マヤフボ上部の急斜面が幅3m程で狭いがあとは広い斜面だ。僕を除く3人は針の木岳を往復し、僕は小屋の陽向でトカゲを洗ぬこむ。

3時過ぎに雨が降り出し3人の帰る時間が長くなる。待つこと1時間、雨の中をカッパも着ずに帰ってきた。

小屋で雨具を着、カスの針の木峠から滑り始める。150cm程に切った板を使っている石垣氏はいつもの通り快調に滑って行く。ハナから波だらけの雪渓で滑りづらい。最狭部を慎重に下り広い斜面へ出た。そこは

波々々々の雪渓で滑りを楽しむのには程遠い。石垣氏は先週の大滝沢の方が快適だったとしきりに言ってくれる。

高野さんの調子が今一步でなかなかおりにこない。傾斜がゆるくなると今度は雪渓上の石コロが長くなる。良さそうな斜面をひろいひろいしながらテント迄下る。下部では雨はあがっており、吹きおろしの風だけがやたら強い。

雪渓はとても快適とはいえなかったが、テントの中は快適でおいしいご飯とおいしいお酒で大満足、大満腹。翌日はマヤ窪へ入る人で登る予定だったが、夜半から大雨は登る気をなくしてしまうのに充分だったようだ。

翌日は雪なのでゆっくり起き、ゆっくり食べ、ゆっくりお発する。帰りは大沢小屋の前から山道を扇沢へ下る。ひどい雨だった。
タイム: 登り3時間、下り1時間 (菅沼)



大雪渓中央部を滑る西川氏

夏だから、滑りたい!